

2023年度 こまき市民「多文化共生」ワークショップ
～みんなで小牧の多文化共生を考えよう～
実施報告

1. ワークショップの概要

(1) 開催趣旨・目的

小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】を周知するとともに、「挑戦すること」の進捗状況の把握に努め、達成状況調査を補完することを目的に開催した。日本人市民と外国人市民による多文化共生の課題についての意見交換を行った。

(2) 実施概要

日時：8月6日（日）13：30～15：45

場所：市公民館 視聴覚室

（小牧市小牧2丁目107番地 市公民館4階）

対象：市内在住・在勤・在学の日本人市民・外国人市民

日本語でのコミュニケーションをベースにして、外国人市民の母国語にも極力配慮しながら、意思の疎通ができる方を対象とした。

当日参加者数：16名（内、外国人市民は10名）

(3) スケジュール

項目	時間帯	内容
1. 一般受付	13：15	
2. 挨拶	13：30	小牧市多文化共生推進室長の挨拶
3. 現状について	13：33	多文化共生推進室より、小牧市における外国人住民を取り巻く状況の変化と多文化共生推進プランについて説明
3. 多文化共生事例報告	13：39	小牧市外国人相談員のトウイさんから日本での生活や子育てについて事例

		しょうかい 紹介
4. プログラム説明	13:49	ワークショップの進め方について説明
5. グループ自己紹介	13:57	グループ内でメンバーの簡単な自己紹介、アイスブレイキング
6. 小牧市の多文化共生の課題について (練習part1)	14:07	『「違い」と「同じ」を探そう！各国ゴミ事情』と題し、それぞれの国のゴミ出しルールなどについて話し合う
7. 意見の発表	14:22	司会者が各グループの意見を整理して、全体共有
8. 小牧市の多文化共生の課題について (part2)	14:32	グループごとにテーマ(例:学校、受験、家事分担、地震に対する備え)を決め、 『「違い」と「同じ」を探そう！各国●●について』と題し、意見を出し合う。まとめも行う
9. グループ発表	15:12	まとめた意見をグループごとに発表
10. ワークショップのまとめ	15:27	まとめ(参加者へのお礼と意見の共有)
11. 終了の挨拶	15:35	多文化共生推進室長の終了挨拶
12. アンケート記入	15:40	アンケートの記入・解散

※日本語レベルが初級以下の参加者は、日本語が上手かつ母語が同じ参加者と同じグループに配置するといった配慮を行う。

(4) 配布資料

- ・ ワークショッププログラム
- ・ 災害時に便利な多言語アプリとWEBサイト
- ・ 粗大ごみの出し方
- ・ 災害用伝言ダイヤル
- ・ 「こまくる」に乗って、出かけよう！
- ・ 区(自治会)に加入しましょう
- ・ さいがい&ひなん Q&A
- ・ 多文化共生推進プラン

- アンケート

(5) おしらせ方法

ワークショップは、下の方法で、周知した。

- 募集チラシの配架
- 広報こまき、外国語版生活情報誌、小牧市ホームページ
- 普段からつながりのある人にメール

2. ワorkshopの結果のまとめ

グループで決めたテーマごとに各国のやり方や考え方を出し合い、気づいたことをグループ内でまとめた。

(1) 当日の発表

Aグループ（ベトナム語グループ）テーマ：子供の政策と子育て

- （ベトナム）乳児検診は有料。
- （ベトナム）学校の授業料は有料で児童手当もない。
- （ベトナム）管理された公園で遊ぶには、お金を払う必要がある。

気づいたこと

- 日本の子育て政策は手厚い。

Bグループ（スペイン語グループ）テーマ：防災

- （アルゼンチン）災害といえば干ばつ、ヒョウ、竜巻、洪水などがある。
- （ペルー）地震があまりない。
- （コロンビア）災害時、ラジオから情報を得る。
- （南米共通）災害時、教会に逃げる。

気づいたこと

- 教会に逃げる人が多いので、日本の避難所を教える必要がある。

- 便利なアプリがあることをもっと周知してほしい。

- 外国人の子どもは学校で避難訓練を経験しているが、親や成人

がいくじん、くねん、きかい、おとなむ、ぼうさいきょういく、ひつ
の外国人は、訓練をする機会がない。大人向けの防災教育が必
よう
要。

- ・市からのメールなどの情報は日本語で発信されているので、多
げんご
言語にしてほしい。
- ・スペイン語圏でも国により違いがある。

Cグループ テーマ：教育

- ・(ミャンマー) クーデターで勉強ができない子もいる。
- ・(ミャンマー) 父は外で働き、母は家庭を守る役割。
- ・(ミャンマー) 酒やたばこが何歳からか、よくわからない。

き
気がついたこと

- ・日本とミャンマーは違いがとても多い。

Dグループ テーマ：交通ルール

- ・(ブラジル) 夜信号が赤でも止まらない。止まると強盗にあう可
のうせい
能性があるため。
- ・(ブラジル) バスは時間通りにはこない。時間を気にしない。
- ・(インドネシア) 人が集まらなるとバスが発発しない。

き
気がついたこと

- ・日本は歩行者優先のルールがある。
- ・日本は子供のころから交通ルールを教えているから守れる。

【まとめ】

くに、こじん、かんが、かた、かた、ちが、りかい
国や個人により、考え方ややり方が違うので、それを理解したうえ
で情報提供の仕方を工夫しなければならぬ。違いだけでなく、おな
じょうほうていきょう、しかた、くふう、ちが
じょうほう提供の仕方を工夫しなければならぬ。違いだけでなく、同じ
ところもあった。どのグループもうまくメンバーの意見をひきだし、
せっきょくてき、いけん、だ、あ、そうごりかい
積極的に意見を出し合うことができ、相互理解につながった。

(2) アンケート

あんけーと、たぶんかきょうせいすいしんぷらん、しんちよくじょうきょう
アンケートでは、多文化共生推進プランの進捗状況のほか、

ワークショップで参考になった意見や、自身で改善していけることなどについて質問した。違いを理解したうえでコミュニケーションをとる必要性やゴミの分別・交通ルールなどの啓発の大切さについて、回答があった。

アンケート項目や集計結果については、別紙を参照。

3. ワークショップの様子（当日写真）

・グループ討議



・発表



